

論説

「週末は気仙沼。海のごとくと人に出逢う旅」をテーマにし

た、気仙沼市浦島地区住民らが企画した観光ツアーが先日、旧浦島小学校舎などを活用して行われた。

初めてのツアーには首都圏や関西などから10人が参加。養殖体験や語り部の話に耳を傾け、浦島地区の魅力を体感した。3月22、23日にも行われる計画で、ツアーが定着し、同地区ははじめ気仙沼の素晴らしさを全国に発信し、観光復興や活性化の起爆剤になることを願いたい。

ており、ツアーで弾みを付け、町おこしにっ

なげていきたい。今回のツアーは、大浦、小々汐、梶ヶ浦、鶴ヶ浦の各自治会など15団体で組織する浦島地区振興会（小野寺光一会長）と、同地区で復興支援に当たるNPO日本国際ボランティアアが共同で企画した。

地域振興の起爆剤へ浦島観光ツアー

同振興会は、浦島地区住民の親睦を図るとともに、閉校した浦島小学校の活用方法を検討。「海・山・里・人」といった地域資源の発掘や、それらを生かした観光事業の模索、郷土芸能の継承や地域の減災・防災対策などに関する取り組みによって、住み良い活気ある地域

づくりを目指すことを目的に、昨年4月にスタートした。

発足以来、練られてきたのがこのツアーだ。ワークショップなどを通して利活用をはじめ、漁村の歴史や自然を生かした体験メニューの開発などを検討してきた。

ツアーは、1泊2日

の日程で行われ、初日はワカメの加工品を製造している工場を見学した後、震災時に避難所にもなった旧浦島小で語り部が震災、浦島地区の歴史と文化について話題提供し、夜は唐桑の民宿で宿泊した。翌日は早朝から浦島地区でワカメの刈り取りやカキむき体験、海

上クルーズなど実施。復興商店街での買い物や、安波山から復興途上の市街地を視察し、魚市場なども回って帰路に就いた。

参加者からは「地域の人たちが結束して取り組んでいるツアーは、気仙沼の魅力を心や体で存分に感じる事ができた」と好評だった。

同振興会でも「復興に向けて立ち上がる地域の魅力を知ってもらえることができたと思う」と、今後へ確かな手応えを感じたようだ。地域力の衰退に危機感を持った地域住民が主体的に取り組んできたツアーである。こうした事業が他地域にも波及し、震災の教訓や魅力を積極的に発信し、地域の活力にすることを期待したい。